

評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校運営

教育理念・目的		
① 学校の教育理念や目標が教員や学生、保護者に周知されているか。また、実際に教員や学生の指針となっているか		
令和5年	令和6年	- 本校は、広島市立の看護専門学校としての位置づけにあり、専門職業人の養成と地域社会に貢献できる看護師の養成を目指している。 - 学校行事や説明会において教育理念・教育目標の説明を行っている。また、学校のホームページに「教育理念」を明示し、誰でもアクセスできるよう広く周知している。 - 今年度新たに3つのポリシーであるディプロマポリシー（卒業認定）・カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）・アドミッションポリシー（入学希望者・学生・保護者・高等学校関係者・社会にとって本校のポリシー（入学から卒業認定までの一貫した流れを理解してもらうこと）は、本校の特色をアピールし、入学時のミスマッチを防ぐためにも有効と考える。今後ホームページで公開する予定である。 - 毎日行われる各授業の中に教育理念が貫かれているかを教員は常に意識し、授業にあたる必要があると考える。 教員評価において、授業の指針としていると答えた教員が半数以上であった
3.3	3.4	
1. 教育理念		
2. 教育目標		
3. ディプロマポリシー		
4. カリキュラムポリシー		
5. アドミッションポリシー		
② 目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の取り組みにつなげているか		
1. 主要事業		- 本校の設置目的は、「看護職の養成」であり、教育理念においても「地域社会に貢献できる看護師を養成する」と掲げている。 - 学校経営計画の令和6年度学校取り組み目標として「看護師国家試験合格率100%」と「看護師としての就職率100%（市内（県内）就職と定着）」「看護職の魅力を伝える」を重点目標3つとし、教務主任会で周知。組織目標を踏まえ教職員は各自の目標を作成し、広島市職員の業績評価における目標・成果シートに反映させ学校運営における次年度への取り組みにつなげている。
2. 学校経営計画		
3. 業績評価		
<u>課題</u>		
3つのポリシーについては、学校教育法施行規則第165条の2に策定することが示されているが、大学を対象としたものであり、専門学校が直接この規定をうけるものではない。しかし、3つのポリシーの策定と公表の意義は、教育の充実を図る点からも専門学校でも必要不可欠と考える。今後は、これをホームページや学生便覧などで公表していく。 - 今回、ディプロマポリシーを明確にしており、それらが習得可能となるように教育していく必要がある		

評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校運営

学校運営に関するマネジメント		
① 学校全体の情報共有、総務課と教務課の連携は適切に行なわれているか		
令和5年	令和6年	本校の運営を司る最も重要な会議として運営会議が設置されている。学校運営全般に関することは、情報共有も含め、総務課・教務課が連携し、運営会議を決定機関としている。また、学生の懲戒に関すること、進級、卒業認定に関することその他、行事や学生の生活全般に関することも情報共有を行っている。今年度は、少子化による18歳人口の減少や他の看護専門学校の開校、看護大学の定員割れ等の状況を踏まえ、「志のある入学者の確保」や「学校の今後の在り方」についても検討を要した。地方自治体が設置主体となり「看護師として必要な知識及び技術を習得させ、医療の普及及び向上に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする」という設置目的を達成するためには、運営会議により総務課と教務課とで、情報共有を図るとともに、連携を密に行っていく必要がある。
3.3	3.5	
1. 学校運営 2. 運営会議 3. 学校の会議 4. 予算 5. 学校設備・施設 6. 組織・分掌事務		
② 業務マニュアルが適切に整備され、必要に応じて適宜見直し、周知されているか		
1. 業務マニュアル 2. 学生便覧		リスク発生の都度、全体共有し、マニュアルを見直して、追加修正を行った。修正をマニュアルに落とし込んでいないものもあり、誰が担当になっても業務が同じようにできるよう標準化されたマニュアル作りが必要である。必要なマニュアルや明文化されたものが無いものもあり、業務を行うにあたり時間がかかり、リスク発生の原因となっている。
③ 管理職のリーダーシップのもと各係長がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮して問題解決にあたっているか		
1. 学校運営委員会規定 2. 組織図 3. 倫理カンファレンス 4. 学校運営管理研修 5. 組織風土		- 本校の組織体制は、校長、副校長、総務課、教務課で構成されている。教務課は、第一看護学科と第二看護学科にそれぞれ係長が配置され、学年ごとに主任も配置されている。 教務課が主に関わる業務として、①～⑦がある。①教育課程の企画・運営、②授業運営③科目の教授、試験ならびに修了認定、学習上の指導、⑤入退学及び学籍の管理⑥図書管理、⑦その他教務に関すること、等がある。業務分担・配席については、各教員の経験等を踏まえ、全体の業務の質、量のバランスを考慮して決定している。 - 教務課は、教員の高齢化が進んでいる。今後の学校運営を見据えて、学校を担っていく次世代の主任・係長（課長補佐）等の育成を行っていく必要がある。今年度初の試みとして、育成のための「学校運営管理研修」を行った。この評価を見て今後も継続していく - 令和6年度の教務課メンタルヘルス集団分析結果では、「仕事のコントロール」は、広島市全体スコアと比較するとやや高くなっていたが、「心身の疲労」「支援と満足度」「総合健康リスク」は、令和5年度と比較するとわずかなではあるが、改善していた。部署異動が無い為、職場の風通しは個々では、難しいこともみられるが、専門学校においても同じ目標に向かって、

	お互いを認め合い、育ちあう組織風土をつくっていくことが大切である。それは、学生にとってもよい影響を与えられる。「管理職のリーダーシップと係長・主任を中心に全教職員が一丸となってよい組織風土の醸成を目指していく。
④ 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、その結果に基づき改善を図っているか	
学校評価 外部評価組織	- 学校自己評価結果をもとに更に客観性・透明性を担保するために本校の関連外部組織の理解促進と連携協力体制を確保し、学校運営の改善を図ることを目的に外部評価組織へ公表している。健康福祉局の局長報告後、学校のホームページで外部評価の公表を行う。 - 令和5年度までは、アンケート郵送形式での外部評価であったが、今回初めて対面での学校評価会を行い、お互いの連携のもと多くのご意見をいただいた。 - 学内組織では、3月の教員研修で学校評価の結果と課題を副校長が教職員へ説明、周知した。 学校評価からの課題は、全教員で次年度に向けて改善につないでいけるよう計画・実施している。
課題 【業務マニュアル】 業務におけるマニュアルは、効率性・安全性からみても必要である。全ての業務に必要というわけではないが、古いものも多く、重要性など優先順位を考えながら整備していく必要がある。 【職場の問題解決】 部署異動が無い為、職場の風通しは個々では、難しいこともみられるが、専門学校においても同じ目標に向かって、お互いを認め合い、育ちあう組織風土をつくっていくことが大切である。全教職員が一丸となってよい組織風土の醸成を目指していく。全員参加の倫理カンファレンスは、今後も継続していく。	

評価項目の達成及び取り組み状況

2) 教育活動

教育課程		
① 教育課程は看護学の内容、求める学修の到達及び学生の成長について明確な考え方と根拠をもって編成しているか		
令和5年	令和6年	新カリキュラムとなり、教育理念から下した教育目標に基づく科目設定を行いカリキュラムポリシーも明文化している。学習の到達としては、看護師養成所として、学校の特色を踏まえて、カリキュラムを作成し、国家試験の合格を目指す。
3.6	3.2	

1. 3つのポリシー 2. 「看護の魅力」	指している。その他、近年の社会情勢の変化や入学してくる学生像の変化等から、社会で活躍し、生き抜くための力として「社会人基礎力」の育成にも力を入れている。 ・ 学生評価では、「看護に魅力を感じる」の項目が令和4年度、5年度と2年連続で低下がみられていた。今年度83.3%から85.6%と若干上昇がみられたが、90.0%以上に達していない。
② 学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容となっているか	
1. 教育理念 2. カリキュラム 3. ディプロマポリシー	・ 教育理念は、カリキュラムを作成していく基盤となる。教育理念には、学校が何を拠り所として、どういう看護師を育成しようとしているのか、教育の在り方が示され、学校教育の特色として盛り込まれている。本校の教育理念・目標に則り、学科目を組み立てている。新カリキュラムとなりディプロマポリシーに合わせ目標に沿った科目を構成している。また、各学科目については、授業の概要、授業の目的、到達目標を明確にし、授業内容をシラバスに掲載している ・ 今年度、広島市立看護専門学校の3つのポリシーについて教員間で検討し、策定した。カリキュラムポリシーを策定したことで、到達目標（卒業認定の方針）が明確になった。また、少子超高齢化と医療提供体制、医療分化、疾病や障害を抱えながら地域で生活する人の増加、ITやグローバル化など医療の動向と時代の背景により求められる看護師は、変化している。これらを踏まえ、広島市立看護専門学校は、「専門職業人として・自己教育力をもって自律できる看護師」の養成をめざしている。
③ 単位認定の基準及び方法は、看護師に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また妥当であるか	
1. 成績評価 2. 単位認定基準 3. 単位認定方法 4. 規程 5. 単位認定会議 6. 学生便覧	・ 単位認定基準・単位認定方法は、規程を整備し、明確化を図っている。専任教員は、これらの基準に基づき、適切な評価を行っている。この評価結果は、運営会議の議を経て、最終的に校長の承認を得ている。 ・ 学生便覧の「成績評価要綱」に則り、1回/年の単位認定会議又は、卒業認定会議において、審議決定している。
未履修科目の原因分析を教員側と学生側で実施し、対応策を講じているか	
	・ 各学年で学生全員に定期面接を行い、学習困難な学生の状況を確認している。単位が習得できなかった学生に対しては、面談を行い対応策を一緒に考え学習につながるように支援している。
<u>課題</u> ・ 未履修科目に関しては、手続きのミス（日時等理解不足）だけでなく学力不足により、毎年、未履修科目を持ってしまう学生がいる。学生によっては、精神的ダメージが大きく、気分の沈みや学習の継続困難が心配される場合もあることから、学生の気持ちを受け止めつつ担任・学年担当主任と面談を行う。必要に応じて保護者を含めた説明を行うこともある。 ・ 専門学校の授業は専任教員のみで網羅することはできず（基礎分野と専門基礎分野が相当時間数あ	

る為) 多くの非常勤講師の協力を得て授業運営をしている。非常勤講師は、多くが病院の医師でもあり、多忙の中スケジュールを押さえることが困難な場合も多く、非常勤講師優先のカリキュラムとなってしまうと学習進度に応じたカリキュラム編成が学生の理解に沿うような形になりにくい		
・ 学生が、「看護の魅力」を感じることができるとして最も有効なのは、臨床現場である実習である。学生が患者とのかかわりの中で、気づき、リフレクションできる場として、学校と実習施設が連携し、実習環境を整えていくことが必要である		
シラバス（授業計画）		
① シラバスと教育課程に整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか		
令和5年	令和6年	・ 授業評価を行い、次年度の課題をあげて学生にとって理解しやすくなるように修正している。シラバスについては、各看護学の категорияで本年度の授業内容を見直し、1月には全体調整を行ってシラバス集を作成した。学生が理解しやすいように様式を統一し調整した。 ・ シラバスの目標をめざした学習ができていたか評価し、今の実習に求められる能力を学習できるように内容検討をしている。学生評価では「学内で習得した理論と内容が実践できる学習」は95.5%、「実習に活かせる看護技術演習である」は97%と共に高評価であった。
3.4	3.4	
1. 授業の目的 2. 目標 3. 授業計画 4. 授業科目 5. 単位数		
② スムーズな授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか		
1. 授業計画 2. 開講時期		・ カリキュラム作成では、学習進度を決めて、シラバスを作成し、カリキュラムを組んでいる。年度初めに学年別に科目の時間数を確認し、時期、内容を考え、学習効果を考慮しカリキュラム調整とした。 それらを活用した授業運営を行い、分析したことから改善策を挙げ、次年度に活かしている。学生評価では「学内教員の授業は理解しやすい」は98.3%で高評価であった。 ・ 時間割の調整については、学生の学習時間を確保できるようその内容に見合う（教育効果を考える）時間割としている。
③ 学生の状況に応じて授業内容や指導方法を考え、工夫・改善しているか。		
1. シラバス内容 2. 活用状況 3. 使用テキスト 4. 参考文献		令和7年度入学生から、電子教科書を採用することとなった。今までは、カテゴリー毎に教科書や参考書を複数の出版社のものを使用していたが、7年度から採用となる電子教科書「ēテキスト」のようにテキストを同じ出版社のもので一元化することで、参考資料の活用や国家試験対策も同じ方向性で網羅することが可能となる。電子教科書導入に伴い、教員の大量の資料準備に係る時間やペーパーレス化など効率の良い教員の働き方改革（資料準備）にもつないでいく。
④ 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか		
1. 授業評価の分析 2. 成績評価		授業と評価が終了した科目ごとに授業評価アンケートを実施し、領域ごとの評価を教員間で共有し、次年度の教育計画に反映させている。教員同士での情報交換を行い評価したことが共有できるよう取り組んだ。
課題		

- ・ ③電子教科書の導入にあたっては、学生はスムーズに導入していけるが、全教員がICTを使いこなせるようになるまでに時間がかかることが予測される。
- ・ より効果的な教育活動を実現するためにICTの活用とそのために必要な施設整備、セキュリティー対策、使用上のルールの検討も必要である。
- ・ ④すべての科目（臨地実習を含む）について授業評価を実施しているわけではない。

実習

① 実習目標が達成されるよう実習環境が整っているか

令和5年	令和6年	カリキュラムの1/3を占める臨地実習は、学生の看護実践能力の育成に必要不可欠である。実習施設は実習という授業形態の教室でもある。実習目標を達成するうえで望ましい実習環境は、看護師育成にとって重要である。質の高い実習を行うためには、学校と実習施設の連携が欠かせない。 実習指導者会議で実習目標を説明しているが、スタッフ全体への周知ができていないことがある。実習指導者との情報交換や連携を密に行い、相互理解を深めていく必要があった。
3.4	3.3	
1. 実習指導者会議 2. 実習目標 3. 実習要綱		

② 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力して実習指導にあたる体制があるか

1. 実習指導者会議 2. 実習目標 3. 実習要綱	実習指導者は、患者への看護の質保証（安全）、教員は、学生の学習の保証。役割を相互理解し、臨地実習でなければ学べないことを実習指導者とどうすれば体験可能か実習方法を調整することが必要であった。
----------------------------------	---

③ 実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか

1. 実習ゼミ 2. 実習カンファレンス	対象者の権利や尊厳を守り、安全を重視し、その人にとって最善とは何かを考える。実習開始前に、接遇の外部講師の授業を受講するようになっている。臨床では看護実践の中に多くの倫理的課題が内在しているが、実習の中での学生の倫理的な気づきを学生カンファレンス・実習ゼミ等で共有している。
-------------------------	---

④ 実習時のインシデント・アクシデントを分析し、学生指導に活かしているか

1. 事実発生届 2. 実習ゼミ	実習に関するIAがレベル0～レベル3まで21件発生した。フローに沿って臨床への報告、学校での対応を行った。発生翌日の朝礼で教員に周知した。学生に対しては、グループ内や実習ゼミでIAについて振り返り、安全・倫理について考える機会を設けている。
---------------------	--

課題

- ・ 同一施設に複数校の実習が入っている場合、同じ基礎看護実習でも実習目標・実習内容・方法は異なっている。施設側に十分理解をしてもらうために担当教員が事前の教員実習や指導者との十分な打ち合わせを行い学生が困惑しないよう調整をしておくことが大事である。
- ・ 実習指導体制については、実習指導者だけでなく、部署の管理者の理解が重要である。実習日の勤務表を作成するのは、部署管理者であり、実習についての相互理解が進むと学校も病院も連携がとりやすく学生にとって有益な臨床実習となる。今年度、相互理解が進むよう実習病院の看護部「師長会」に参加し、実習に関するプレゼンを行った。

評価項目の達成及び取り組み状況

3) 学生支援

学生支援		
① 学生が学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が利用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。		
令和5年	令和6年	<u>精神的支援</u> - メンタル面に関しては、非常勤の臨床心理士であるスクールカウンセラーによるカウンセリングを無料で受けることができる仕組みとなっている。今年度、カウンセリングは、個別カウンセリング、グループカウンセリング、授業・オリエンテーション、教員研修の年間計画とし実施した。カウンセリング実績としては、例年同様「対人関係」「精神保健」に関する内容が最も多かった。「学業・進路」に関することは、1件のみと減少していた。 - 学生支援に関しては、チューター制も残しつつ担任制を導入している。チューターは、精神的サポートや学習環境の指導などを主に行っている。学生アンケート結果から、教員の「精神的サポート」が87.7%と90%以下を示し、「教員の相談しやすさ」は91.3%と90%以上であったが、前年度よりも低下していた。 <u>経済的支援</u> - 奨学金対応については、学力・人物ともに優秀、健康でありながら経済的理由により修学の困難な者に一定の金額を給付又は貸与することによって学費の負担を軽減し、学業に専念できるよう広島市立看護専門学校修学資金（卒業後広島市内に就職しようとする成績優秀者）・日本学生支援機構奨学金（給付・貸与）・広島県看護協会（第二看護学科3年生：1年間）・広島市教育振興会奨学金（第二看護学科1年生：3年間）などが利用可能である。学生個々の状況に合わせて対応している。 <u>ハラスメント</u> - 昨年度学生に行ったアンケート結果を踏まえ、学内ハラスメント相談フローを作成するとともに、専用メールアドレスを取得し、学生が相談しやすい体制を整えて、学生に対し、あらためて周知を図った。学内ハラスメント防止対策として教員は学習会や倫理カンファレンスを行い教員自身の意識改革を行った。 <u>学習支援</u> - 成績の振るわない学生について、学習支援が必要となる。その原因として①基礎学力の低下②学習習慣が身につけていない③アルバイトに多くの時間を費やしている。④主体的に学べない。等があげられた。 〈主体的に学べない学生への支援〉 本校では、学生個々の学習環境の把握に努めている。全学生の面談を行い、学習習慣、アルバイト状況、家庭環境の情報から、対象の学生に対し、学習状況を継続的に注視し、指導している。
3.3	3.4	
1. スクールカウンセリング		
2. 精神的支援		
3. 経済的支援		
4. ハラスメント		
5. 学習支援		
6. 合理的配慮		

	<u>合理的配慮</u> 身体障害がある学生は現在入学してきていないが、「合理的配慮申請」制度がある。申請があった場合、その学生の障害の程度や障害を補う方法、入学後の授業や臨地実習での配慮事項について情報収集・共有し、個別に対応している。
② 学生の心身両面での健康管理体制が整っているか。	
学生便覧 「健康管理要綱」	健康管理については、専門学校のカリキュラムはスケジュールが過密で体調管理が重要となる。遅刻・欠席が増えると単位を落とすことにつながる。体調不良時は、早めの受診を行い、実習施設等への感染防止に努めるよう指導している。保健室にきた学生の情報は、常時、担任にも共有され、気になる学生へは、早期対応を心がけている。学校保健安全法に基づいた健康診断や健康管理の指導が学校医の協力のもと実施されている。
③ 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分に応じているか。	
	説明会、インターンシップ、アルバイト等への参加を促すとともに、担任との定期面談を行っている。学生個々の相談内容によっては、教職員一同で、連絡調整し、適切に対応している。また、カウンセラーへの紹介・相談も行っている。
④ 学生主体で自治会活動が実施できるよう計画的かつ適切な指導・支援を行っているか。	
	学生間の交流を深め、学生生活を有意義なものにするため、2年生執行部を中心に、自治会の運営を行っている。今年度は、学生連盟の担当校となったが、他校との連盟会議の計画立案、連絡調整、人数調整を学生たちが行い、最終的に自治会担当教員へ報告した。できる限り学生が主体となって進めることができるように、支援を行っている。
⑤ 図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	
	本校の図書室には、基礎分野、専門分野に関する書籍、定期購読学術雑誌等を整備している。図書室専任の担当職員を1名配置し、学生の状況を見ながら資料ファイルの活用や文献検索の支援を行い、学習についての質問・相談に対応している。
<u>課題</u> 【学習支援】 近年、多様性に富んだ学生が本校へ入学してきている。看護職に求められる能力は年々高くなっていることを踏まえ、専門的な学習にスムーズに移行していけるような支援が必要である。	

評価項目の達成及び取り組み状況

4) 教職員の育成

教育技術の向上		
① 教員が計画的に研修に参加できるよう支援しているか。		
令和5年	令和6年	研修、学会への参加、研究活動、自己啓発などへの支援体制は、整備されている。教員研修は、学会出張、WEBでのセミナーや学会へ参加した。その
3.4	3.6	

1. 学会、研修会参加 2. 看護協会への参加	他、専任教員継続研修への参加があった。また、自己研鑽での学会・セミナー・研修参加も積極的に行っている。	
② 研修や学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。		
	学会やセミナーに公費参加した場合は、復命書を記入し全職員へ回覧している。 教員研修で、伝達講習を行っている。	
③ 授業を他の教員が参観、講評できる機会があるか。		
	・ 公開授業は広島市教育委員会第二指導課から教員を招き、新任専任教員の授業参観後に、振り返りや講評として、教育方法の実際を学ぶ機会を設けている。ピアレビュー（教員同士の授業参観）を導入している	
課題		
・ 実践的な職業教育機関として、専任教員の資質向上が望まれる。その為には、専任教員の教授力を向上させること、能力を適切に評価したうえで、研修・研究に取り組むことが必要 ・ 教員の平均年齢が高年齢化しているが、若い世代の今後の育成も踏まえ、学校運営マネジメント研修は今後も継続していく必要がある ・ 専任教員の専門性・教授力評価する体制を整えていく必要がある（FDの活用と見直し）		
看護教員の育成・確保		
① 人材育成・人事交流推進に向けて広島市立病院機構と円滑な連携体制を確保しているか。		
令和5年 3.2	令和6年 3.5	・ 1回/年 5月に市立病院機構との会議を行い、人事交流についての希望者の確認や人事交流の在り方についての検討を行っている。県外での看護教員養成講習会を受講させる。専任教員としての育成を行っている。 ・ 市立病院機構と4病院の看護部長・広島市立看護専門学校副校長との五施設長会議を2回/年行い、実習・教育研修・学校と病院との連携についての課題など協議を行っている。 ・ 学生が実習病院において指導を受ける実習指導者研修会を毎年行っている。現在は、市立病院の指導者のみでなく、学生が実習に行く他の病院施設の指導者も研修参加者が増えている。
1. 機構連携会議 2. 人事交流 3. 教員の育成 4. 管理者の育成		
② 看護教員が働きやすい職場環境を整えているか。		
1. 職場環境 2. 年休取得率 3. 選考採用状況 4. 教務事務の活用	・ 今年度（令和6年度）より教務事務を1名採用することができたため、今後、業務のタスクシフトを行い、専任教員でなくてもできる奨学金や講師対応・臨地実習の実績表作成等、業務の委譲を行い、スリム化を図った。今後も少しずつ教務事務への業務委譲を拡大していきたい。 ・ 本校の看護教員は職場内の高年齢化に伴い、計画的に今後の学校運営を担う看護教員の育成を行う必要がある。これについては、すみやかに選考採用を実施した。 ・ 教職員の年休の平均取得日数を提示した。朝礼等で、年間スケジュールを立て、計画的に年休を取得するよう声かけを行った。職員の意見から、上司から積極的に年休の取得を進めてもらおうと取得しやすいという声があった。次年度は、	

	目標数値を設定し、意識的に職場で取り組んでいきたいと考える。 ・ 職場環境については、良好な人間関係、協力やサポートが得られやすい、情報の共有ができている、福利厚生や業務の不均衡がないこと、勤務体制などを整えることが必要と考えるが、これらの内容については、教職員の評価等から、少しずつではあるが、以前と比較して改善できているという意見が多かった。学生からの意見やハラスメントに対する教員研修や学内相談フローを作成し学生も含めた周知徹底を行った。職場環境に関する職場内研修やアンケート結果をもとに教員間で倫理カンファレンスを継続している。
課題 【働きやすい職場環境】 ・ 職員の年休取得状況は個々によってばらつきがあり、業務内容及び業務量の調整が今後も課題である。お互いの年休取得が把握できない為、学年ごとに年休取得スケジュール表を作成してもらい、見える化とする。学年ごとに年休取得を把握しながら、推進していく。 【教員確保】 ・ 教員確保はどの学校においても大きな課題であると思われる。今年度は、早い時期から計画的に選考採用に向けた協議等を関係部局と行い、3名の教員を確保することができた。	

評価項目の達成及び取り組み状況

5) 入学・就業・就職

入学者の確保		
① より多くの応募者を確保することに努めているか。		
令和5年	令和6年	・ 18歳人口の減少は、専門学校、大学ともに学校経営や、その存続にも大きな影響を与え、ひいては医療現場の看護師不足にもつながる。入学者の確保は、喫緊の課題である。 ・ 本校は、「看護師として必要な知識及び技術を習得させ、医療の普及及び向上に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする」という行政目的を達成するために、入学者確保に取り組んでいる。 ・ 学校の取り組みとして主に広報担当者を中心に以下の取り組みを行っている。 (ア) 学校説明会の開催（2回/年間） オープンスクールや進路相談会を計画し、高校生だけでなく幅広い年代の参加が可能な計画にした。ただし、学校内敷地が限られるため、人数制限を設けた オープンスクールでは動画を使用した学校紹介、在校生の体験発表、進路相談等のブースを作り実施した。 (イ) 高校主催の進路説明会への積極的参加 広島市内及び一部市外の高等学校からのガイダンス要請に対しては、ほぼ100%応じている。受験生が進学先を選択していく際、身近な先輩が選んだ
3.7	3.5	
1. 進路相談会開催状況と参加人数		
2. 入試委員会		
3. オープンスクール参加人数		
4. OS参加者アンケート結果		

	学校や具体的な声は安心感や強い励みとなる。 (ウ) 広島市広報との連携（マスコミ・ホームページ・YouTube） (エ) 市系列病院等と協力して、「ふれあい看護体験」学校説明会へ参加している。 (オ) 「看護の日」での学校説明会への参加
--	--

課題

- ・ 今後も続く 18 歳人口の減少と看護系大学への進学者の増加を考慮し、1 人でも多くの優秀な志のある入学者を確保するため、学校の魅力を受験生に向けていかに発信できるかが課題である。
- ・ 高校卒業生数の減少や、大学進学が当たり前になっている昨今、専門学校の受験者数は、年々減少傾向にある。本校は、今のところ、定員割れは無く、他校のように社会人入試枠は設けていないが、今後、新たな検討が必要である。
- ・ 学生の出身校へのアピールや高校の進路指導担当教諭との関係づくりも必要である。本校について理解を深めてもらい、アドミッションポリシーに合致した人材確保を目指す。

② 入学者の状況について、入学者選抜方法の妥当性から分析し、検証しているか。

1. 入試委員会 2. 運営委員会 3. 選抜方法 4. 応募数 5. アドミッションポリシー	・ 前年度の実績を踏まえたうえで、入学者選抜方法の妥当性を検証し、必要に応じて改善を行い、入学者の確保に努めている。推薦入試に関しては、志願者は、例年と変化はみられていない。 ・ 今年度は新たに本校の 3 つのポリシーを策定し、入学試験の選考の基準とした。推薦入試では、学生の学習継続状況や成績から、アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）をふまえた視点で、人物評価を行うよう選考方法等を検討した。 ・ 一般入試に関しては、毎年の入学試験の実施状況を踏まえたうえで、運営会議において学生募集、選抜方法を検討し「志のある学生」の確保に努めた。18 歳人口の減少と大学進学者が増加していることから、前年度よりやや減少傾向であったものの志願者数は、定員を大きく上回る状況であった。
---	---

国家試験合格率・就職率 100%

① 国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を行うなど、教職員が一丸となって取り組んでいるか。

令和 5 年	令和 6 年	
3.2	3.4	・ 国家試験対策委員会を中心に 3 年間を通して、学生のレディネスに合わせた取り組みを計画実施した。各論実習で知識を活用した看護実践をとおり、実

	習での学びが国家試験に繋がるように取り組んだ。 ・ 学生評価では「国家試験合格の取り組みが効果的」が 88.8%、昨年より 3.8 ポイント低下した。 ・ 今年度、隙間時間学習として新しい学習アプリを導入し指導した。3 年生は 3 年次からの活用のため、慣れていな様子が見られたが、模試と連動した活用はできていた。活用率は高かったが、「使用しやすい」と答えた学生は、約 40% であり、「有料なら紙の参考書がよい」「使いこなすのに時間がかかる」という意見も多かった。1 年生は、9 月からは順調に活用が増えていた。約 65% の学生が毎日 1 回は受講している数値となっており、模試振り返り機能では完了率が 50%と全国平均から比較しても高値となった。2 年生は、年間通じて活用率があり、必修問題の完了率 100%の学生が半数であった。次年度の使用について継続の可否を検討する。 ・ 今後の看護師国家試験は読解力が必要となり、その場の状況を判断し適切な看護を選択する問題が増えてくる。臨床判断能力が求められており、実習経験や学びが国家試験に繋がることを教員が理解し教育活動にあたる必要があった。
--	--

課題

【入学者選抜】

- ・ 本校では、志願者数が定員を上回り、確実に入学者の確保がおこなえている現状にはあるが、今後は、入学者が減少していく可能性を踏まえると、学修が主体的に継続可能な「志ある学生」の確保が必要となってくる。また、他の専門学校のように社会人枠を設けることも検討していく
- ・ 選抜方法とその妥当性については、今後、学生の学修状況等へのモニタリングが必要である。

【国家試験合格率】

- ・ 国家試験 100%を目標に個別の学修、生活面の指導体制を整えていく。また、国家試験の結果を分析し、3 年間を通した国家試験対策を強化していく。
- ・ 授業が国家試験に繋がるように授業内で国家試験問題に取り組み、1 年次から国家試験を意識した教育活動を行う必要があると考える。
- ・ 国家試験対策アプリの継続の必要性を検討する。
- ・ 今後の看護師国家試験は読解力が必要となり、その場の状況を判断し適切な看護を選択する問題が増えてくる。臨床判断能力が求められており、実習経験や学びが国家試験に繋がることを教員が理解し教育活動に当たる。

③ 卒業生の広島市内就職率を高めるよう努めているか

学生の就職率	進路ガイダンスを病院の規模別に分け計画し、学生が病院を知り広島市内就職につながることを目指して実施した。 ガイダンス実施時期について、学生のほぼ 100%が「適切」とし、ほぼ 100%が「参加して良かった」と回答した。 進路ガイダンスを 1 年次から組み込み、自分の将来について学生が段階的に考えられるよう時期・内容を考慮して計画した。新たに学生自身が自己理解を深め、適性を考え、就職に向け取り組むことが理解できるガイダンスを実施した。進路
--------	---

	について考える機会を作った。 学生の就職活動については、希望を阻害しない範囲で、広島市内への就業を働きかけた。今年度、約 70%の卒業生が広島市内に就職できた。
④ 卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析し、学校運営に活かしているか	
	学生のほぼ全員が看護師の資格を活かし希望する施設に就職、進学決定しており、学修した専門性を活かせる満足度の高い就職の実現を図っている。 卒業生の動向を学生支援システムによりデータ管理し、就職指導に活かしている。
課題 【就職率】 学生個々の課題や問題にきめ細かい指導や働きかけを継続し、就職支援体制を整えていく。 卒業生の到達状況については、実態調査が必要。今年度ディプロマポリシーを策定した為、そこを基準に分析していく	

評価項目の達成及び取り組み状況

6) 地域との連携・社会貢献

学校の情報発信		
①学校の情報について、ホームページをはじめ多様な手段で積極的に広報活動を行っているか		
令和 5 年	令和 6 年	本校の取り組みとして、広報担当が中心となって以下のような取り組みを行っている。
3.7	3.5	
1. 学校説明会参加 2. マスコミ対応 3. 進路説明会参加 4. ホームページ 5. 広島市 YouTube 6. 学校便り 7. パンフレット 8. ふれあい看護体験参加		1. オープンスクール・学校説明会 2. マスコミ対応・・・広島市広報のほか、今年度は以下の番組等へ協力 ① 「広島広域都市圏魅力発信 元就 二百万一心」(R C C) ② 宣誓式 (R C C・ホームテレビ・NHK) ③ 教育現場の感染対策 (NHK) 3. 進路説明会参加状況 ① 高校への進路説明会へ参加 ② 一般進路説明会 ③ 広島県主催・・・看護師養成所 Web 説明会 4. 学校ホームページの更新 5. 広島市 YouTube へ動画更新 6. 学校便りの配布 7. パンフレット作製・・・ 8. 実習病院と協力してのふれあい看護体験
社会貢献		
②社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通じた地域社会への貢献を組織的にしているか		
令和 5 年	令和 6 年	・ 看護協会の各講習会等の講師派遣を行っている。 ・ 実習施設における臨床実習指導者の育成研修として、市立 4 病院の他、5 病院
3.4	3.8	

	の指導者を招いて、「5 施設臨床指導者研修会」を行っている。 ・ 実習指導者として看護教育への理解を深めることにより、指導者の役割や実習環境を整えることの必要性を理解し、臨床と学校の連携を図っている。 ・ 市立 4 病院から同病院の看護師が、本校の統合看護方法論Ⅱ（演習）に参加することで、看護師の指導力が向上し、学生においては、臨床で求められる実践的な看護師の思考過程や知識・技術の提供を受けられる。病院と学校のユニフィケーションを推進している。
課題 広島市の看護学校として、地域へのボランティア活動等、学生と共に貢献する活動を今後は考えていきたい	